

千葉県立博物館評価に係る有識者意見交換会 自己評価票

達成度(数値達成度のめやす)		自己評価	総合評価
達成	目標値≥100%	4	A
ほぼ達成	目標値≥80%	3	B
やや不十分	目標値≥50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≥75%	4
ほぼ達成	達成値≥65%	3
やや不十分	達成値≥50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	資料のデジタル化数	今年度実績	16247件	4	A	情報システム登録点数(上段H27増加数、下段H26増加数)
					6989件				
		2	収蔵資料の受入	今年度実績	21142点	3			
				昨年度実績	21347点				
		収蔵資料の有効活用	3	館外貸出(外部機関等展示等)	今年度実績	35件	4	A	26年度については実績の数値データがないため未記入。
					昨年度実績	32件			
			4	館内利用(学術調査等)	今年度実績	30件	/		
					件				
			5	著作物資料への利用(出版物掲載等)	今年度実績	53件	3		
		昨年度実績			59件				
		調査研究	6	調査事業件数	件数	今年度実績	94件	3	
					昨年度実績	95件			
7	共同調査事業件数		件数	今年度実績	14件	4			
			昨年度実績	13件					
8	研究成果の公開状況		論文研究報告	今年度実績	116件	3			
			昨年度実績	126件					
大項目 I の総合評価(A~E)							A		
博物館コメント	館内利用の値は、館内で実施した展示に利用した件数と、基金で購入した資料の研究利用の実績値のみを含む。26年度については実績の数値データがないため未記入。資料のデジタル化数(情報システムへの登録数)は前年度を大きく上回った。本年度も引き続き登録に努める。 調査研究は前年度並みであったが、論文研究報告は高い数値を維持している。今後も調査研究活動が低下しないよう努める。								
有識者コメント	【石川】資料の情報システムへの登録は、今後の利用価値が期待できるので、続行願いたい。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値				
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	今年度実績	143954人	4	A	
						昨年度実績	142635人			
			2	企画展「妖怪と出会う夏 in Chiba 2015」	入館者数	今年度実績	29566人	4		
						昨年度実績	17276人			
			3	季節展・生態園トピックス展	入館者数	今年度実績	49510人	4		
						昨年度実績	35038人			
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	今年度実績	21回	4	A	
						昨年度実績	15回			
			5	企画展「妖怪と出会う夏 in Chiba 2015」	実施回数	今年度実績	1回	4		
昨年度実績	1回									
6	季節展・生態園トピックス展	実施回数	今年度実績	20回	3					
			昨年度実績	23回						
総合的な満足度	7	博物館	アンケート満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	0%	4	A	未調査		
				今年度実績	89%					
	9	季節展・生態園トピックス展	今年度実績	0%	未調査					
大項目IIの総合評価(A~E)							A			
博物館コメント	企画展、トピックス展等の入館者数は前年度を大きく上回っているにも関わらず、全体の入館者数が平成26年度とほぼ同じである。これは常設展のみの期間中の集客力が弱いことを示している。常設展のみの期間中にも入館者数が増加するよう努める必要がある。									
有識者コメント	【石川】県民視線の関心度の高い企画展を期待します。									
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	今年度実績	106%	4	A	
						昨年度実績	79%			
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	今年度実績	13件	4		
						昨年度実績	12件			
大項目IIIの総合評価(A~E)							A			
博物館コメント	達成度が高い理由は、平成27年度の企画展開催期間中の入場者数が26年度よりも多かったことの結果による。企画展開催期間中の入場料は通常時よりも高いため入場料収入を増やすためには重要であることを認識し、今後も集客力の高い企画展を企画・実施していく。									
有識者コメント	【石川】県民視線の関心度の高い企画展を期待します。									

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	今年度実績	1791回	3	B
						昨年度実績	2163回		
			2	HPでの利用状況	アクセス数	今年度実績	284449件	3	
						昨年度実績	291560件		
			3	報道機関への情報発信	取材件数	今年度実績	128件	4	
						昨年度実績	115件		
大項目Ⅲの総合評価(A~E)							B		
博物館コメント	HPの情報発信数は昨年度を下回ったものの、HPのアクセス数は昨年度とほぼ同じであった。これはツイッターによる情報発信が増えたためと考えられる。今後もHPの充実とツイッターを利用した情報発信に力を入れていく。								
有識者コメント	【石川】他の博物館を参考に、特色あるホームページを望みます。								
V	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	今年度実績	120校	4	B
						昨年度実績	116校		
			2		入館者数	今年度実績	6319人	3	
						昨年度実績	6967人		
			3	生徒・児童	入館者数	今年度実績	6319人	3	
						昨年度実績	6967人		
			4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	今年度実績	22校	4	
						昨年度実績	20校		
			5		利用者数	今年度実績	1005人	3	
						昨年度実績	1202人		
		地域関係団体との連携	6		団体数	今年度実績	35団体	4	
						昨年度実績	35団体		
			7	連携・共催(大学、NPO等)	利用回数	今年度実績	80回	2	
						昨年度実績	106回		
8			利用者数	今年度実績	4046人	2			
				昨年度実績	5479人				
9	中央博サークル	利用人数	今年度実績	908人	4				
			昨年度実績	879人					
10	ボランティア活動	活動延人数	今年度実績	148人	3				
			昨年度実績	164人					
大項目Ⅳの総合評価(A~E)							B		
博物館コメント	多くの項目において平成26年度並みの実績であった。本年度は特に学校団体利用促進を図り、校長会等に出向きPR活動を展開していた。また博物館近隣校を重点校に設定し、行事予定やチラシを重点的に配布する活動も継続する。								
有識者コメント	【石川】従来よりは、広報面で確実に向上している。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値				
VI	教育・普及活動	来館状況	1	ミュージアムトーク	参加者数	今年度実績	2280人	4	A	
						昨年度実績	2168人			
			2	講座	講座観察会(館主催)	参加者数	今年度実績	1032人		4
							昨年度実績	992人		
			3		展示関連行事	参加者数	今年度実績	5026人		4
							昨年度実績	4320人		
			4	体験教室	体験イベント	参加者数	今年度実績	933人		3
							昨年度実績	969人		
		5		休日特別企画	参加者数	今年度実績	1965人	2		
						昨年度実績	2768人			
		6		中調・森調	参加者数	今年度実績	2342人	3		
						昨年度実績	2477人			
		7		自然誌フェスタ	参加者数	今年度実績	1959人	3		
						昨年度実績	2001人			
		8		山FM行事(注:館外)	参加者数	今年度実績	724人	4		
						昨年度実績	721人			
		総合的な満足度				〇〇〇〇	今年度実績	%	C	
〇〇〇〇	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合					今年度実績	%			
〇〇〇〇	今年度実績					%				
〇〇〇〇	今年度実績					%				
〇〇〇〇	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合					今年度実績	%			
〇〇〇〇	今年度実績					%				
〇〇〇〇	今年度実績					%				
利用状況	17	相談件数(来館、メール、電話等)	利用件数	今年度実績	130件	2				
				昨年度実績	176件					
大項目Vの総合評価(A~E)								B		
博物館コメント	多くの項目で前年度並みの実績であった。しかし、休日特別企画の項目は前年度を大きく下回っている(71%)ので、本年度の県民の日や、夏休みの特別企画等については広報活動に力を入れたい。									
有識者コメント	【石川】ホームページの充実、教育センター等を通じた広報に期待します。									
VII	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	今年度実績	21人	4	A		
					昨年度実績	16人				
			2	教員等の研修	今年度実績	1056人	4			
					昨年度実績	837人				
		3		職場体験	今年度実績	69人	4			
					昨年度実績	62人				
4		インターシップ	今年度実績	21人	4					
			昨年度実績	11人						
安全管理	5	研修会の開催	実施回数	今年度実績	1回	4				
				昨年度実績	1回					
6		防災訓練実施等	実施回数	今年度実績	1回	4				
				昨年度実績	1回					
大項目VIIの総合評価(A~E)								A		
博物館コメント	すべての項目で平成26年度を大きく上回った。人数が増加すると時間的・スペース的に行き届いた指導が必ずしもできないが、講義内容等を工夫するとともに受入体制を整え今後も研修生を受入れに努める。									
有識者コメント	【石川】存在意義を高める上でも、人材育成は継続して実施願いたい。									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明			
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	今年度実績	15団体	4	B
					昨年度実績	14団体		
			2		今年度実績	652人	4	
					昨年度実績	651人		
			3	外国人来館入込	今年度実績	0団体	1	
					昨年度実績	0団体		
			4		今年度実績	103人	4	
					昨年度実績	92人		
大項目Ⅷの総合評価(A~D)							B	
博物館コメント	オリンピックに向け、訪日外国人が増加するのに備えて、外国人来館客が満足できるよう、展示説明の多言語化を徐々に進めていく。							
有識者コメント	特になし							
総合評価(A~D) [各達成度の平均]							A	
総合評価と次年度への対策	全体として前年度並みの実績であった。企画展が好評であったにもかかわらず、前年度よりも入館者数が減少してしまったことは、常設展のみの時期の影響が大きい。学校団体の利用促進活動とおし、初めての来館を促し、コンシェルジュ制度をはじめとした来館者満足度を上げる活動に力を入れることにより、リピーター獲得へつなげる。また企画展についても、広報活動に力を入れ、昨年度を上回る実績を残せるよう努める。							

【博物館評価に係る有識者意見】

評価項目全体に係る意見	【石川】 職員の来館者への対応は大きく向上していて評価できる。常設展示の工夫により雰囲気が変わればリピーターの増加も見込める。考える時期に来ていると思う。全員参加型の今の体制は続けたい。
	【飯田】 詳しく話を伺っておらず、館の目標値が分からないので評価をするのが難しいが、「前年度の実績値が本来のあるべき姿なのか？」によるところ大きいと思います。単純な入館者数になるが大多喜の104,500人と本館の144,000人弱を見比べると、本館の入館者数はもっと多くても良いのではないかと感じます。勿論、館の役割は入館者数を増やすことがすべてではなく研究調査も極めて重要ですが、成果の大半は入館者の方々の満足度と入館者数だと思います。進めておられるコンシェルジュ機能やミュージアムトークなどの強みを活かして、気づきのキッカケづくりから更に深掘り出来るような博物館にして欲しいと思います。

【博物館記入】

意見への対応	開館から30年近くが経過し、常設展示のリニューアルを考える時期に来ているが、大規模リニューアルは時間を要するため、館内でリニューアルの検討を始めたところである。展示品の変更や新しい研究成果の公表などにより雰囲気を変え、リピーターの増加につなげたい。 入館者数を評価する値として、本年度は前年度の数値を使用した。来年度は館の目標値を作成したい。入館者数を増やし、かつ満足度を高めることができる企画展を実施できるように努めたい。 コンシェルジュは本年度から始めた制度であり、その有効性・改善点を検証することが必要である。その結果を次年度に反映したい。ミュージアムトークや各種行事イベントについては、次年度以降も精力的に取り組みたい。
--------	--